

## 岐阜県の皆さん、初めまして！

JICA海外協力隊としてザンビアに派遣されています、森本衣美です。

2025年4月にザンビアに到着して、早2か月が経ちました。幼いころから憧れていた

『遠いアフリカの大地』、今こうして生活できていることが不思議な感覚です。

これから、ザンビアでの生活や活動の様子をお届けしていきます。

第1回は、私が暮らす「ザンビア」ってどんな国なのか、ご紹介します！



## ザンビアってどんな国？

面積：約75万km<sup>2</sup>（日本の約2倍）

人口：約2000万人（2024年推定）

公用語：英語（地域では現地語）

民族：73部族

宗教：8割近くはキリスト教

通貨：クワチャ

時差：日本より-7時間

気候：サバナ気候（雨季と乾季がある）



緑：自然の豊かさ

赤：自由への戦い

黒：ザンビアの人々

オレンジ：鉱物資源

ワシ：自由と力強さの象徴

「アフリカって暑いんじゃないの？」

とよく聞かれますが、

- ・ザンビアは標高1,000-1,400mの高地に位置していて、朝晩はとても涼しいんです。
- ・乾季は10度前後まで冷え込むこともあり、町ではコートや毛糸の帽子をかぶった人たちも見かけます。
- ・ちなみに、日本から持ってきたお菓子の袋がパンパンに膨らんでいて、標高の高さを実感しました（笑）。

合言葉は、、、

**One Zambia, One Nation**

～民族や文化が違って私たちが一つの国民～

これは、ザンビアの人々の心の中に深く根ざしており、大切にしている言葉です。

ザンビアは、70以上の民族が暮らす多民族国家であり、1964年の独立以降、民族や言語の違いを超えて「一つの国」として団結することを大切にしてきました。

この言葉は、国民の連帯感や平和への願いを象徴するフレーズとして、現在も多くの場面で使われています。

実際に、異国から来た私を町の人々は温かく迎え入れてくれ、この言葉を教えてくれました。日々、ザンビアの人たちのやさしさを感じています。



## ザンビアで、大垣市を発見！

～ザンビアで西濃運輸のトラックを見つけました～



ザンビアでは、日本の中古車がたくさん走っています。車内の表示やカーナビが日本語のままのものも多く、ナビには日本の地図が映っていることも。

自家用車だけでなく、園児送迎バスや日本の会社名が書かれたトラックなど、今も現役でザンビアの道を走っています

遠く離れたザンビアに、『もう一つの日本』があるように感じられ、日本語が書かれた車を見るたびになんだか嬉しくなります。



## 今月の1枚



ザンビアへの渡航日  
首都ルサカ近郊の上空にて  
「いよいよ、ここまで来たんだ」という  
思いと、これから始まる新生活への  
ドキドキとワクワク。夢見ている  
アフリカの大地が目の前に  
広がっていました。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。次回は、首都ルサカと私の任地モンゼの紹介をします。来月号もどうぞお楽しみに！